



化学会発

第5回日台合同シンポジウム「革新触媒による持続可能な化学合成」

The 5th CSJ-CSLT Joint Symposium -Sustainable Chemical Synthesis via Emerging Designer Catalysts-

2025年3月27日 関西大学 千里山キャンパス(日本化学会第105春季年会 併催)

日本化学会と台湾化学会の国際交流

日本化学会(The Chemical Society of Japan; CSJ)は、台湾化学会(The Taiwan Chemical Society; TCS)(旧称:中国化学会; The Chemical Society Located in Taipei; CSLT)¹⁾と2018年に二学会国際交流に関する覚書(memorandum of understanding; MOU)を締結し、これまで続けてきた学術・人的交流をより緊密で持続性のあるものとした。

この覚書に沿って、両学会は、毎年交互に開催幹事となって、「日台合同シンポジウム」(CSJ-CSLT Joint Symposium)を開催している。この会議では、両学会が協議して主要テーマを設定し、幹事学会の年会(CSJ:春季年会, TCS:化学年会)に相手学会の会長と役員および主要テーマの分野で活躍する中堅・若手研究者(講演者, 4~5名)を招待し、人的および学術交流を深めてきた。

第5回日台合同シンポジウムの開催

「第5回日台合同シンポジウム」(図1)は、両学会の協議の結果、主要テーマを「革新触媒による持続可能な化学合成」(Sustainable Chemical Synthesis via Emerging Designer Catalysts)とした。テーマの選定では、両学会にとって、一般的に持続可能な化学の振興が現在の最重要課題であり、とりわけ台湾化学会では、持続可能な材料と先端電子情報材料に関する研究および研究支援が重要であるとの判断によっている。台湾は、周知のように解像度1 nm以下の超高度集積回路の電子デバイスの開発と製造で世界を牽引しているが、化学、特に有機化学や材料化学を専攻した大学院生も、これらの分野への就職が進んでいるとのことであった。

今回のテーマに関し、日本化学会側では、この分野で活躍されている大井貴史教授(名古屋大学大学院工学研究科)に開催幹事をお願いし、同教授が主宰するCREST「新機能創出を目指した分子技術の構築」研究グループのメンバーを中心に下記の4名の方々に招待講演をお願いした(50音順。講演順、敬称略)：

上垣外正己(名古屋大学大学院工学研究科) 一高分子精密合成

近藤 美欧(東京科学大学理学院化学系) 一無機錯体化学

穴戸 哲也(東京都立大学大学院都市環境科学研究科) 一固体触媒化学

松永 茂樹(京都大学大学院理学研究科) 一有機合成化学

会議のプログラムを図2に示す。講演要旨集も本会により公開されている⁴⁾。なお、今回の会議では、台湾化学会の許千樹教授(Chain-Shu Hsu; TSC/CSLT 元理事長; 前回までの開催幹事)と陳俊太教授(Jiun-Tai Chen; TSC/CSLT 常務理事)(いずれも國立陽明交通大學)および日本化学会事務局企画部国際交流担当チームが中心となって準備と開催に当たった。

会議は、日本化学会第105春季年会の併催シンポジウムとして、関西大学・千里山キャンパスで2025年3月27日に開催した。春季年会の常として、大多数の聴講者は得られなかったが、それでも30名程度の参加者があり、日本と台湾の両学会の中堅・気鋭の講演者による興味ある講演が行われ、活発な討論が続いた(図3)。会の終わりには、丸岡啓二日本化学会会長と陳玉如(Yu-Ju Chen)台湾化学会・前会長に挨拶をいただいた(図4)。

日台合同シンポジウム

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 2018年12月8~9日, 台湾化学会2018化学年会 併催, 高尾市, 國立中山大學「グリーン・エネルギー」 |
| 第2回 | 2021年3月21日, 日本化学会第101春季年会 併催, オンライン開催「エネルギー変換と貯蔵のための触媒」 |
| 第3回 | 2022年3月12日, 台湾化学会90周年記念年会 併催, オンライン開催 ²⁾ 「将来に向けた持続可能な化学」 |
| 第4回 | 2024年3月30日, 台湾化学会2024化学年会 併催, 新北市, 淡江大學「循環経済に資する化学」 |
| 第5回 | 2025年3月27日, 日本化学会第105春季年会 併催, 吹田市, 関西大学 ³⁾ 「革新触媒による持続可能な化学合成」 |



図1 合同シンポジウム出席者(関西大学 千里山キャンパス)



図2 第5回日台合同シンポジウム プログラム

今回の合同シンポジウムは、恒例に従い台湾化学會が開催幹事学会となって、2026年3月に台湾で開催される。主要テーマは今後両学会で協議して決定するが、日本化学会では第105春季年会の実行委員長を務められた松田健児教授（京都大学）に開催幹事をお願いし、台湾化学會に協力して招待講演者の選定と開催準備に当たる予定である。

興味ある講演をいただいた両学会の招待講演者各位に改めて御礼申し上げるとともに、日本と台湾の化学における国際交流が今後さらに進展することを願っている。

- 1) 台湾の化学界を代表する学会。従来、その公式ホームページでは「中國化學會」（旧字体）と称し、英語では“The Chemical Society Located in Taipei”（CSLT）と表記されていた。その後、2024年3月の同学会化学年會



図3 シンポジウムにおける講演



図4 両学会代表の挨拶

（左）丸岡啓二 日本化学会・会長；（右）陳玉如 台湾化学會・前会長。

で、「台湾化学會」（The Taiwan Chemical Society; TCS）と改称された。https://chemistry.org.tw（2025年4月現在）。https://en.wikipedia.org/wiki/Chemical_Society_Located_in_Taipei（2025年4月現在）。なお、中国（中華人民共和國）の化学会は「中国化学会」（新字体）および“The Chinese Chemical Society”（CCS）と表記される。https://www.chinesechemsoc.org（2025年4月現在）。

- 2) 澤本光男, 化学と工業 **2022**, 75, 355.
- 3) https://www.chemistry.or.jp/news/information/CSJ-CSLT-5th.html（2025年4月現在）。
- 4) https://www.chemistry.or.jp/news/CSLT-CSJ_2025_abstract.pdf（2025年4月現在）。

〔澤本光男（中部大学、日本化学会 常務理事・国際交流委員長）〕

© 2025 The Chemical Society of Japan